

地域歯科保健について公共哲学は適用できるか？

鶴本 明久

Is the Public Philosophy applicable in the Community Dentistry?

Akihisa Tsurumoto

3・11の震災以来なぜか思考停止状態に陥っています。多分、テレビで見る凄まじい映像とこちらの淡々とした日常生活とにギャップがあり過ぎ、リアリティの所在に困惑しているからだと思います。うつ状態を呼び起こすような状況は今も続いています。それはともかく、この未曾有の大災害への対応についての批判やリーダーシップ等の欠如をしきりに嘆いている評論家・ジャーナリスト(?)を毎日TVで見させられています、これには大きな不快感を感じています。現在進行形の出来事を論評することのバカバカしさと無責任、そして非生産性への苛立ちもありますが、論評の対象が各論というか枝葉末節にすぎず、今私達が一番考えないと行けないこと「これから何をしなければいいのか?」についての発言が一切ないことが一番の苛立ちです。むしろ被災者の方の発言や行動に今後の方向性と強い意志、覚悟を感じます。米国型のグローバル戦略に闇雲に追随してきたことの見直しが必要です。今こそ、生きることの意味とか、社会や地域についての哲学とこれまでの生き様についての再考が必要なのではないのでしょうか。

教室名を「地域歯科保健学」に変更したことで、社会学的な「地域 (community)」の意味について考えています。保健活動も含めて生活活動の基本的な単位がcommunityだという結論です。県や国は、地域 (範囲について議論する必要があるかもしれませんが) の決定と行動をコントロールすべきでないと思います。「地域 (community)」とは、道徳的規範を具現化できる範囲、すなわち「公共的価値観と共通の"善"をリアリズムによって確認できる」限界であって思索が及ぶ最少の単位ということでしょうか。この結論は、昨年驚異的にブレイクしたマイケル・サンデル教授のコミュニタリズムの影響です。リベラリズムの延長の果てに起きている市場主義の暴走と「自己責任」という美名によって拡大する格差社会は現代の最も醜悪な現象の一つです。我執に腐敗していく社会と喪失感に気付くべきではないのでしょうか。本来、我々が持っている帰属意識としてのcommunityへの忠誠心と「共通善」への認識によってcommunityの持つ目的へ向かって連帯し、資源の再配分も均等に分配するのではなく目的を達成できるように合理的に実行していくことだと思います。サンデル教授の「政治哲学」は韓国でも大ブームとなっているそうですが、その理由として儒教的な「義(正義)」の観念と通底するからであると「ハーバード白熱教室」の解説をしている小林正弥教授が指摘していました。日本の「祭り」の思想とも共有できるのではないのでしょうか。いずれにして

【著者連絡先】

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3
鶴見大学歯学部予防歯科学講座
鶴本明久
E-mail : tsurumoto-a@tsurumi-u.ac.jp

も「共通善（義）」を背景としたcommunityの連帯感が復興のエネルギーになるような気がします。

保健・医療についてもcommunityの範疇を無視し、全国一律の法律等でコントロールできると過信したことで様々の矛盾と問題を起こしています。特に、評価の物差しが“お金”に替わったことで著しく「正義」を失ったように思います。保健・医療の提供がビジネス(市場原理)と考えられ、利用する側は購入できる医療商品と考えるようになったことで起きている医療の荒廃です。「健康」はcommunityの公共資産であり、「共通善」の1つだと思います。医療・保健は個人の問題ではなく「公共政策」として実践されなければならないし、参加するすべての当事者はcommunityへの連帯と奉仕（負荷ありし自己）を覚悟しなければならないでしょう。医療・保健においてもサンデル教授が言うところの公共哲学としての「正義」のスキームが重要だと思っています。

私的にはコミュニタリアニズムの哲学は、今の日本の地域保健に最も適合する考え方だと思っています。ヘルスプロモーションの理念にも合致するし、「ソーシャル・キャピタル」の概念とも共通していると思います。「ソーシャルキャピタル」と横文字になっていますが、もともと「祭り」を想起させる概念で逆輸入されてきた言葉のように感じます。「持続可能な保健医療」は「ソーシャルキャピタル」を基本要素としているようですし、communityの本来の目的を達成するための重要な資源です。健康の評価をする際にはいくつもの物差しを使うということ、ヘルスプロモーション活動の中で何度も確認してきたことのように思います。集団の中にある多様性・多元性を尊重することが地域の原則であり、それを保障できる範囲を「地域」と呼ぶのかもしれませんが。歯科保健・医療を公共哲学的に考えられるか自信のないところですが、ダメ元でやってみる価値はあるように思います。

Is the Public Philosophy applicable in the Community Dentistry?

Akihisa Tsurumoto

(Tsurumi University, School of Dental Medicine, Department of Community Dentistry)

By blindly follow for American liberalism, the moral hazard has occurred with the reckless progress of market fundamentalism as globalization and the ugly social inequality introduced by the name of self-responsibility in Japan. In the health services economic principle has also made the primary purpose lose. Health is common social resources among community residents. The health creation led by the residents should depend on the bottom-up, and the governments should never control. However, the order in alignment with the purpose of the community is very important. Then the public philosophy, especially communitarianism, might be applied in the community dentistry. The idea of “common good” exists in the community and the control with the idea creates the Justice in society. I think that we should consider the community dentistry through the communitarianism.

Health Science and Health Care 10 (2) : 106 – 107, 2010